

平成 26 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立皆生養護学校

学校長 河 本 史 幸

評 価 日	平成 27 年 2 月 24 日 (火)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 【資料】・平成 26 年度学校自己評価表 ・保護者アンケート（後期）回答率 82 % ・児童・生徒評価 ●一人一人の発達と障がい特性に応じた教育 ・根拠に基づいた客観的な実態把握や評価ができ、それが適切な教育につながっている。 ・連携図などの活用により授業改善が進んでいる。 ●保護者や地域の期待と願い ・進路指導や交流教育などについてさまざまな情報発信をしているが、双方向からのものになっていない。特に進路指導については個別のニーズが多岐にわたることから、さらに改善・工夫が必要である。 ・各学部にあわせた保護者のニーズ把握、情報提供が必要である。 ●センター的機能の推進 ・教育相談が増加している。関係機関と連携し、適切な会議やつなぎ等を行っている。 ・センター的機能を担う学校の教員として教育相談にかかわる意識を高める必要がある。 ●情報機器（iPad）活用 ・今年度 60 台導入され、学習で活用している。具体的な実践例の研修を多く持ち、8 割以上の教員が授業で使用した。 ・今後は活用の質を高める取り組みを進める。 (2) 説明・公表について 特になし		⇒校内研究等の成果が幼児・児童・生徒への教育成果に結びついている。これを次年度につなぐことが重要である。 ⇒進路指導について保護者のニーズが高まっている。それに応えられるような発信内容の改善と教員研修に取り組む。 ⇒場合によっては県や市町村と連携するなどの対応を進める。 ⇒就学相談に関わる研修や説明をすることを通して意識向上を図る。 ⇒利用が広がったので、次の段階として効果的な活用について検証をする。また、基本的なマニュアルと実践事例集を作成する。 ○学校自己評価、保護者アンケート、第 2 回学校関係者評価委員会報告は 3 月にホームページで公開する。保護者アンケート結果は家庭配布する。
2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営		

の状況について

おおむね目標を達成している。詳細は事業の概要書及び評価表を参照

3. 取組改善のための提言

○進路指導に関する取り組みについて

- ・評価が低い根本原因の解明が必要である。
- ・卒業学年になってからでは遅く、もっと早い段階から生活をひっくるめて進路を考えていく必要がある。働くことだけでなく、家でのようすも探り、細かいことも含めて進めなければ皆生の進路指導といえない。
- ・小学部や中学部の保護者からは（わが子が）どうなるんだろうとかどうやって（進路が）決まるんだろうという声がある。

○ICTの効果と業務軽減について

- ・どのような教育効果があるか。
- ・業務の軽減につながっているか。

○参観日について

- ・参観日だけでなくいつ来校してもよいことをもっと知らせてはどうか。

○防災について

- ・地震、津波の対策

⇒社会に出るために必要な力と学習のつながりを明確にし、本人・保護者と共に進めるキャリア教育、進路指導にしていく必要がある。

⇒視覚的なツールとして、学習のふりかえり、調べ学習の教具などとして主体的な学びに活かされている。

⇒たくさんのソフトがあって便利であるが、それを見つけることに時間を要する。ソフトの分類・整理が必要である。

⇒来年度はいろいろな曜日に参観日を計画している。

⇒避難訓練を計画的に実施している。食料等の備蓄については県段階で検討中である。